

ヴィジョンズ オブ・アメリカ

平成20年度 東京都写真美術館 収蔵展

Visions of America

2008 8/30 (sat) ▶ 10/19 (sun)

●観覧料＝一般500[400]円／学生400[320]円／中高生・65歳以上250[200]円
※1 内は20名以上の団体料金。東京都写真美術館友の会会員、小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料。第3水曜日は65歳以上は無料。
※2 休館日＝毎週月曜日(但し、祝日の場合は開館し翌日休館)
●開館時間＝10:00-18:00(本・金は20:00まで)入館は開館の30分前まで ●休館日＝毎週月曜日(但し、祝日の場合は開館し翌日休館)
●主催＝東京都 東京都写真美術館 ●後援＝アメリカ大使館 ●協賛＝凸版印刷株式会社 ●協力＝フォト・ギャラリー・インターナショナル | 新潮社

東京都写真美術館 3階展示室

ルイ・アームストロング(1900-71)、東京で「世界の巨匠」／三木淳 1953年

Visions of America Part 2 "This Land is Your Land"
第2部「わが祖国」1918-1961
第3部「アメリカン・メガミックス」1957-1987 会期＝2008年10月25日(土)～12月7日(日)



地下鉄のポトレイト／ウォーカー・エヴァンズ
1938-41年



フォード工場、リヴァー・ルージュ、溶鉱炉の土台／チャールズ・シーラー
1927年

平成20年度 東京都写真美術館 収蔵展

Visions of America

第2部「わが祖国」1918-1961

Visions of America Part 2 "This Land is Your Land"



ブラインド・ウーマン／ポール・ストランド
1916年



ふたつの小屋、ダンスヴィル、ニューヨーク／マイナー・ホワイト
1955年



死体とピストル：「裸の街」／ウィージー
1940年頃

アメリカは、写真初期から現在にいたるまで、特に20世紀においては世界の写真表現をリードしたといってもよいでしょう。アメリカ国籍の作家はもちろん、ヨーロッパやアジアの作家にとっても重要な創造の「場」であり「対象」でした。

平成20年度収蔵展「ヴィジョンズ・オブ・アメリカ」は、19世紀のダゲレオタイプから現代に至るまで「アメリカ」という場のなかから、生み出された多種多様な表現を、時代によって3つのパートから紹介しています。そこには、アメリカの建国以来の歴史が単に見て取れるだけではなく、「グローバル／ローカル」といったアメリカ文化がもつ重層性が見えてくるのではないのでしょうか。

本展となる第2部「わが祖国」は、第1次世界大戦が終結した1918年からケネディ大統領就任の1961年までを時代背景として展示構成します。資本主義社会のなかでトップに躍進したアメリカは、写真表現においてもヨーロッパからの影響を離れて独自性を獲得し、世界の中心的役割を担います。それはストレート写真の美の追求でもありました。

第1次世界大戦後の、黄金の10年と呼ばれる豊かな時代を経て、世界恐慌、第2次世界大戦、東西冷戦構造、赤狩りなどの激動の社会状況と関わりながら、ストレート写真がどのような展開をしていったか、その変遷を探ります。

★関連イベント★

講演会 2008年9月12日(金)18:00より

講師＝日高優(群馬県立女子大学専任講師)

「アメリカ的なものを求めて―1930年代のアメリカン・ドキュメンツの眼差し」

会場＝1階創作室 定員＝50名

入場無料(当日午前10時より当日有効の観覧券チケットをお持ちの方へ入場整理券を配布します。)

★フロアレクチャー★

会期中、毎月第2、第4金曜日16:00より担当学芸員による展示解説を行います。

(観覧券チケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。)

東京都写真美術館 www.syabi.com 3F

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 TEL.03-3280-0099

新潮社刊《とんぼの本》
メモリーズ・オブ・
アメリカン・ドリーム
東京都写真美術館 編

「ヴィジョンズ・オブ・アメリカ」展
第1部～第3部の主要作品を網羅し
その時代背景や写真史的位置づけを
担当学芸員がわかりやすく解説した
本展の公式ガイドブック写真集
A5判 192頁 定価2100円(税込)
ミュージアムショップ
& 全国書店にて発売中



■ JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分・東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。
■ 当館には専用の駐車場はありません。お車でのご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。